



平成27年3月18日
京都市立桂坂小学校
校長 林 正 幸

3月 特別号



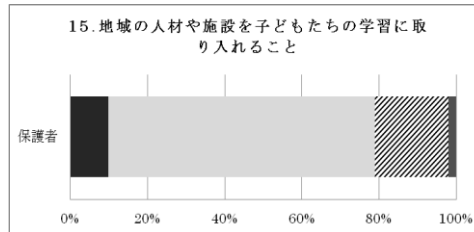
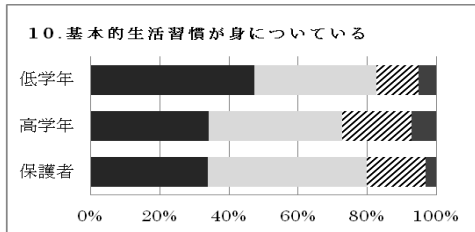
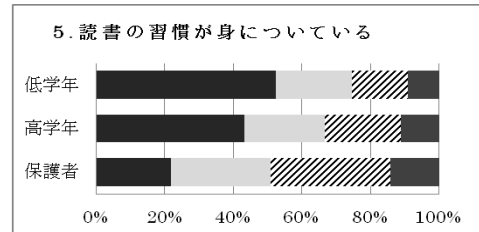
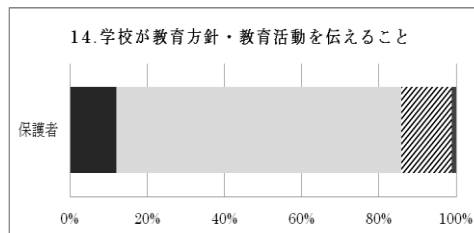
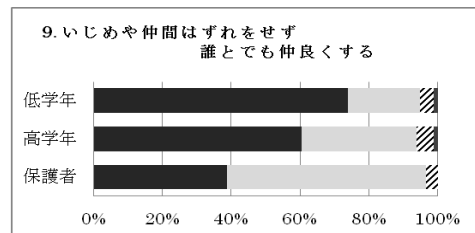
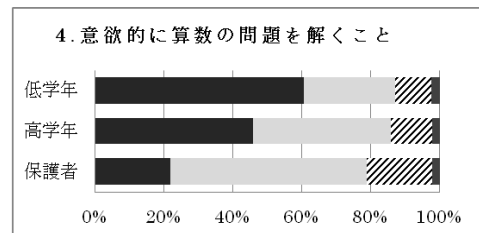
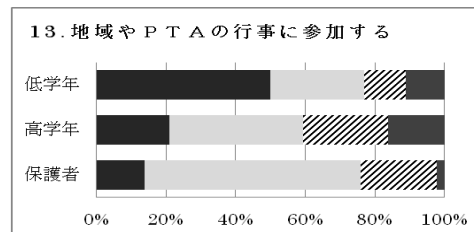
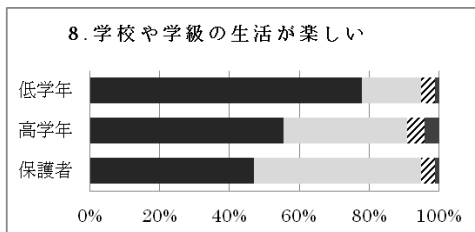
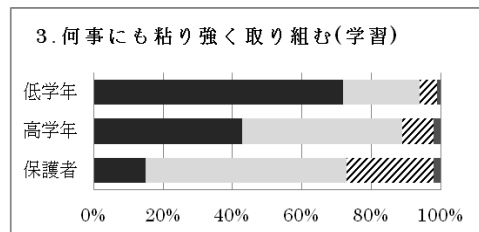
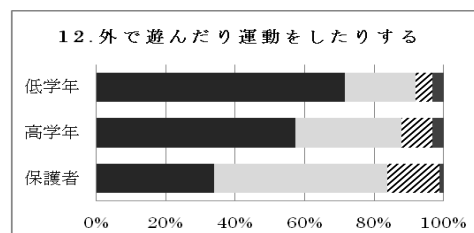
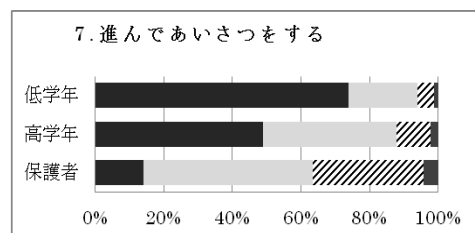
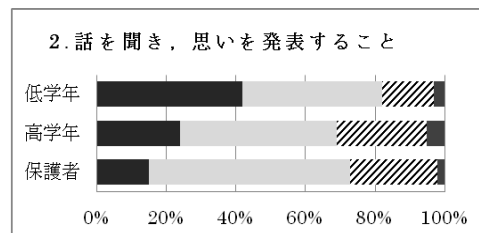
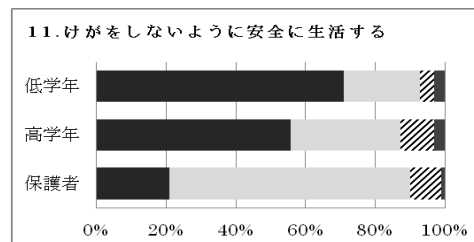
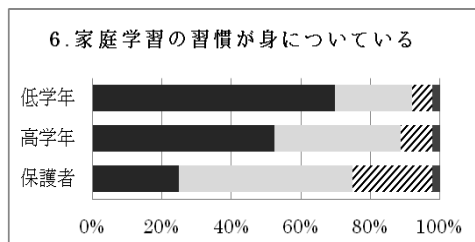
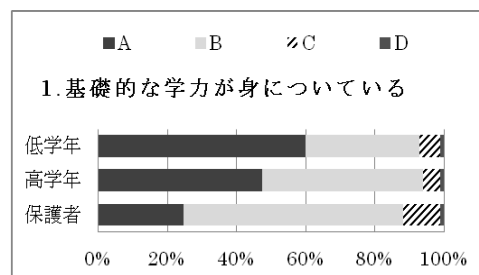
Email:katsurazaka-s@edu.city.kyoto.jp

お忙しい中、学校評価のアンケートにご協力いただきありがとうございました。このアンケートは、子どもたちや保護者、地域の方々の一人一人の声を大切にすると共に、共通認識のもと連携して取組をすすめ、子どもたちの学校生活をよりよいものにすることを目指しています。



学校生活について(ふりかえり)アンケート結果【後期】【児童・保護者アンケートより】

A・よくできている B・大体できている C・あまりできていない D・できていない



【確かな学力について】

保護者の方のアンケート結果をみると、前期と同様に「5. 読書の習慣が身についている」において一番低い評価が見られました。前期も述べたように、日々の家庭生活の中に読書をする余裕がないと考えられます。ただし、児童の結果をみると評価は一番低いのですが、特に低学年において数値の上昇がみられました。これは学校の取組として選書会で自分の選んだ本が図書室に入ったり、オレンジルームに図書コーナーを設置して図書に親しみやすいようにしたりした成果ではないかと考えられます。また保護者の方から、読書の量だけでなく質も大切にしてほしいという意見が複数ありました。今後図書に親しむ機会を増やしていくとともに、読書の内容にも目を向けて取組を進めていきたいと思います。

前期と比較すると少しずつではありますが低学年は各項目とも数値が上がり、高学年は数値が下がっています。学年が進むにつれて学習の内容が難しくなり学習量も増えていくことで、学力の個人差も大きくなり、意欲や粘り強さの低下につながっているのではないかと考えられます。学年が進んでもみんなが学習内容の定着を図れるように授業改善に向けて取り組んでいきたいと思います。また学習全般において児童よりも保護者の方の評価が低いという結果から、学校で学習に取り組んでいる姿勢が家庭学習では見られていないのではないかと考えられます。家庭でもしっかり学習に取り組めるように保護者の方と連携をとりながら子ども達に働きかけていきたいと思います。

【豊かな心について】

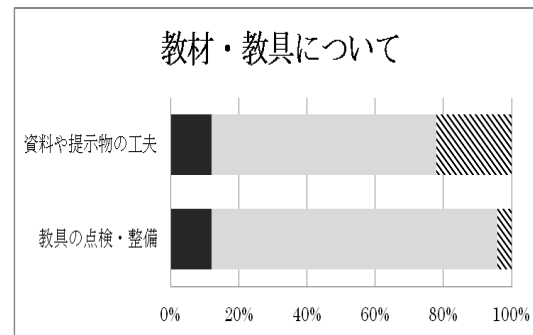
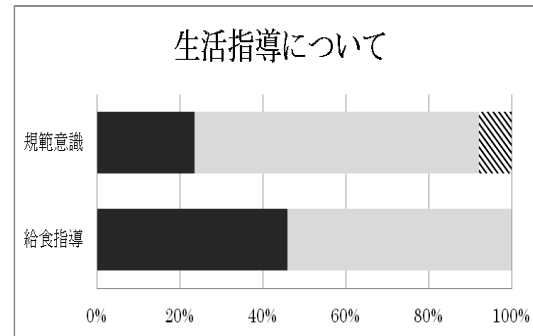
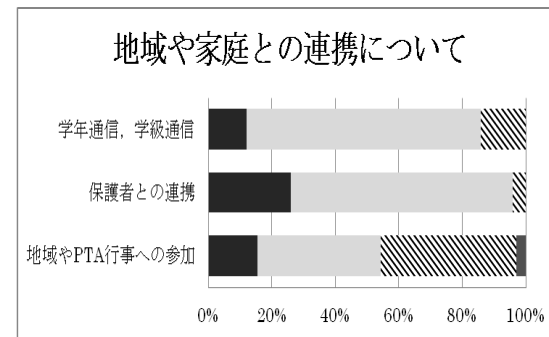
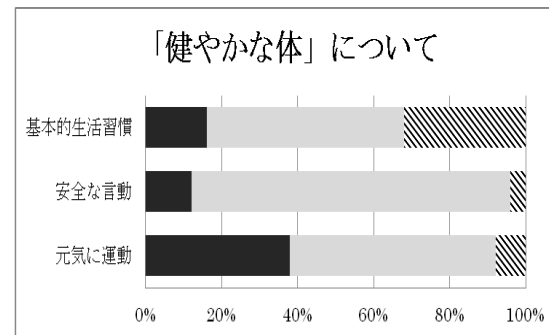
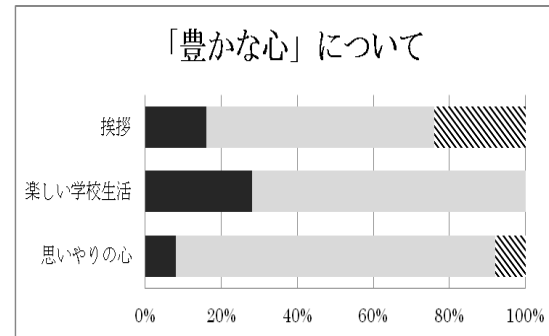
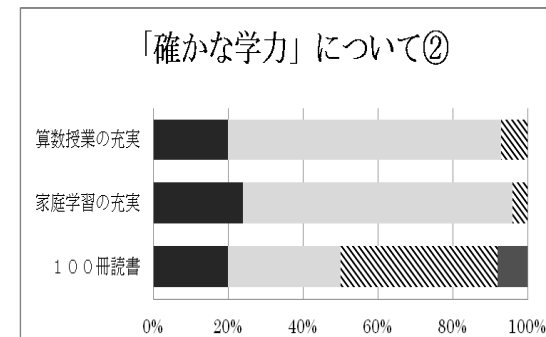
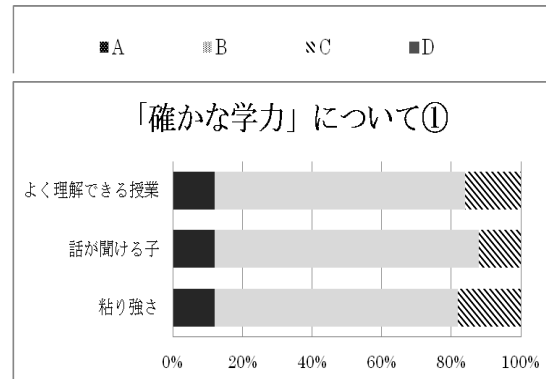
「7. 進んであいさつをする」については学校・保護者・地域ともに重要課題であると考え、「声かけ運動」も期間を長くして取り組んでいます。挨拶をする子が増えてきたという意見もありますが、地域でなかなか挨拶が出来ていないようです。また、児童の評価が低くないことから、挨拶が出来ていない子どもたち自身に問題意識があまりないのではないかと考えられます。理想とされる挨拶の仕方を明確にし、引き続き学校全体や各学級で指導していきたいと思います。

【健やかな体について】

「10. 基本的な生活習慣が身についている」の項目で保護者の方の評価が前期よりさらに低くなっています。後期は気候や習い事の関係もあり、家庭での生活リズムが今まで以上に乱れているのではないかと考えられます。基本的な生活習慣の定着は、学校生活の充実や学力向上のために必要ですので、保護者の方と連携を図りながら改善に努めていきたいと考えています。

教職員アンケートより

A・よくできている B・大体できている
C・あまりできていない D・できていない



【確かな学力について】

前期と同様「読書習慣」において評価が低くなっています。低学年児童の評価が少し上がったことは選書会や新たな図書コーナーの設置等の成果だと思われますが、朝読書や国語科の授業等でも、ねらいをもって継続的に読書に取り組んでいきたいと思います。また学年にふさわしい内容の読書に取り組めるように働きかけていきたいと考えています。

「理解できる授業」や「算数授業の充実」においては、算数を研究教科として継続的に取り組み、一定の成果が見られたと感じています。ただし学級全体としては出来ていても、個人個人でみると課題もあり、今後も授業改善や授業の充実について考えていく必要があると思われます。

【豊かな心について】

前期同様「挨拶」について課題を感じています。保護者の方や地域の方からもご指摘を頂いているため、学校全体や各学級で指導をしていますが、まだ十分ではないと感じています。気持ちの良いあいさつが内面から自然に出るように繰り返し声かけをすると同時に、子ども達同士でも挨拶ができるように取組を進めていきたいと考えています。

【健やかな体について】

後期は持久走大会やなわとび大会の練習を休み時間に取り組んできたため「元気に運動」の評価が上がりました。大会の後も休み時間になわとびやボール遊びをする児童の姿が多く見られ、今後も継続するように働きかけたいと思います。

3月12日（木）第3回学校運営協議会（PKF：プロジェクト・カツラザカ・フォレスト）より

アンケートの中で学校生活の基盤となるのが「8. 学校や学級の生活が楽しい」「9. いじめや仲間はすれをせず誰とでも仲良くする」の項目であり、まずこの2つの結果についてご意見を伺いました。子どもたちが楽しく学校に通うことが一番大事であり、どちらの項目も保護者の「できている」という評価が95%以上という結果は、学校教育の取組の成果であると評価していただきました。ただし特に高学年で「8. 学校や学級の生活が楽しい」を「できていない」と回答した児童が少なからずいるという事実をしっかりと受け止め、その理由を解明し改善に努めていかなければならないというご意見をいただきました。その「学校が楽しくない」という根本的な課題を解決することが、他のアンケート項目の「学力」や「挨拶」の向上につながる最善策であるご指摘いただきました。「挨拶をしなさい」「本を読みなさい」ではなく、自分から自然と挨拶をしたり読書をしたりできるように、学校が楽しくなるような取組や日々の授業改善や学級経営に重点をおいて取り組んでいきたいと思っています。また「挨拶」については学校外でもよくできている地域もあり、子どもたちが自分から挨拶してくれるので道を歩いているという感想を頂きました。また学校の取組だけでなく、家庭や地域でも挨拶をする習慣をつける手だてが必要であるというご意見もありました。大人が地域のコミュニティーの場を積極的に活用し他者との関わりを増やすことが大切で、防災訓練やクリーンデーなどの地域行事やPTA行事に親子で参加することで、大人と子ども、または子ども同士の関わりも増え、自然に挨拶ができるようになるというご意見はみなさん一致されていました。「読書」については図書ボランティアの方から、以前より本を借りる子どもたちが増え、図書マナーも良くなっているという感想をいただきました。しかし、調べ学習の本が不足していたり、借りたい種類の本が少なかったりもするので子どもたちや教職員、図書ボランティアさんなどにリクエスト本を書いてもらうなどの工夫をして、子どもたちにとって魅力のある図書室にしていきたいというご意見を頂きました。

アンケート以外では、子どもたちのインターネットや携帯の利用を心配する声がありました。悪質な犯罪やいじめなどのトラブルから子どもたちを守るために、周りの大人がしっかりと注意を呼び掛けていかなければいけないというご意見をいただきました。今年度、警察の方から教育フォーラムの中で講演をしていただいたり、児童に「ケータイ教室」をしていただいたりしました。今後も取組を考えていきたいと思っています。また校区に新たに店舗ができたことで、ロータリー付近の横断歩道に旗を設置していただきました。今後も子どもたちが安全に安心して登下校できるように交通安全の呼び掛けをしっかりとしていきたいというご意見をいただきました。

